

## 「子育て支援アンケート票」分析からみるハイリスク妊産婦抽出の有用性

真田産婦人科麻酔科クリニック

○ 徳永和美 松岡ちずよ 池田佳代 米原ルリ 大井手亜綾 渡辺ルリ子 向井かずみ  
松元民子 隈上友香里 酒井康子 島ノ江栄子 平川万紀子 平川俊夫  
福岡女学院看護大学 福澤雪子

### 【目的】

妊娠期からのメンタルヘルスサポートの更なる充実を図るために、妊娠初期に行う「子育て支援アンケート票」（以下アンケート票）のリスク項目と産前産後の支援の有無、産後の EPDS 得点、「赤ちゃんへの気持ち質問票」（以下ボンディング）得点との関係を分析し、意義と有用性を検討した。

### 【方法】

平成 26 年 10 月～平成 27 年 8 月の期間にアンケート票を記入した妊婦 1064 名について、アンケート票の 7 つのリスク項目、「若年妊娠」「夫・パートナーの有無」「夫・パートナーに何でも打ち明けることができる」「経済的な不安がある」（以下経済的な項目）「妊娠が分かったときの気持ち」（以下妊娠時の気持ち項目）「精神的なことで相談したことの有無」（以下精神的な項目）「常用している薬の有無」の中で当院基準の選択肢に回答されたもの（以下チェックあり）と、支援の要否の関係を検討した。さらにこのうち当院で出産した 699 名について、アンケート票の各リスク項目と産後の EPDS 得点、並びにボンディング得点との関係を検討した。

統計学的検討は  $\chi^2$  検定、Fisher 正確確率検定、及び Cochran-Mantel-Haenszel 検定を用い、 $p < 0.05$  を有意とした。倫理的に配慮して個人が特定できないように匿名化しデータ処理を行った。

### 【結果】

1064 名のうち、346 名がリスク項目にチェックありで、そのうち実際に支援が必要になった者（以下要支援者）は 130 名（37.6%）であったが、チェックなし 718 名で要支援者は 59 名（8.2%）であり、前者で要支援が有意に高率であった。リスク項目のうち、「若年妊娠」と「精神的な項目」で特に要支援者が多かった。699 名のうち、リスク項目の「経済的な項目」「妊娠時の気持ち項目」「精神的な項目」にチェックありで、退院時 EPDS が有意に高得点であり、1 か月健診時 EPDS は、「精神的な項目」のみが有意に高かった。ボンディング得点は退院時、1 か月健診ともに「精神的な項目」にチェックがある場合にのみ有意に高かった。

### 【考察】

子育て支援アンケート票のリスク項目と要支援の有無に相関があり、本アンケート票は要支援者であるハイリスク妊産婦の抽出に極めて有用である。特に「精神的な項目」は EPDS やボンディング得点と相関があり、精神的な要支援者の抽出に有用である。